



## 新しいプロジェクト

暁星修道院長 青木 勲

2022年の干支は「寅」です。アジアに住む猛獣の「虎」、古くから日本画の襖絵などのモチーフとしても重宝されてきました。虎が獲物を狙う時の「静と動」「柔と剛」の対比、こそが、虎が持つ優雅さと貫禄の魅力なのかも知れません。



さて新型コロナウイルスの第6波の動静を虎視眈々と見つめながらも、ここぞと思う時には虎のように一つの決断を敢行する勇気を持ちたいものです。

教皇フランシスコは「パンデミックは私たちに、私たちにはお互いが必要なことを教えてくれました。でも、これが分かっただけでは不十分です。私たちは日々、目に見える形でその道を選ばなければなりません」(カトリック新聞2021年11月7日)と語って具体的な実行を勧めておられます。そこで、私たちにとって目に見える行動とは・・・？

来年、暁星学園の「125周年記念事業」の一

つである修道院棟が完成します。その一部に『集会室』が設置されます。週日は学校の用途で用いられますが、土曜日の午後と日曜・祝祭日には、マリアニストの「勉強会」、「研修会」、「召命・司牧活動」、さらに日本で生活しておられる外国籍の方々との「出会いの場」として、シャミナード修道院の会議室(2階)と並行して活用できる新たな宣教活動のための開かれた場の提供です。交通の便もよく、コロナ禍で対面による関わりが制限されてきただけに、オンラインやズーム・ミーティング等も対応できる新しい宣教の場となれば、福者の両創立者も満足なさるでしょう。

「あの方が何か言いつけたら、なんでもしてください！」

まだ白紙ですが、何らかの具体的な計画をお持ちの方、是非お早めにお申し出ください。

ご一緒に、できることから始めましょう。あなたのアイデアが原動力です！

## おめでとうございます！2年ぶりの奉献式



### おめでとうございます！ 2年ぶりの奉献式

先月の11月3日文化の日にシャロンの花で活躍されている、リタ末吉偕子さんとシエナのカタリナ奥村一美さんの奉献式がシャミナード修道院のお聖堂で、市瀬幸一神父様、清水一男神父様の司式により、厳かに執り行われました。

FMIからはシスター墨田、シスター小林にご臨席いただき、AMからは田中正子さんが、シャロンの花からは時枝裕子さんが、MLCは代表者数名が出席いたしました。ZOOMによる同時配信も試みられました。パンデミックの猛威のために、奉献式は2年ぶりになり、お二人には長い時間お待たせすることになってしまいましたが、今後も教会、地域、MLCを通して変わらずご活躍頂くことを心からお祈り申し上げます。おめでとうございます。



▲前列、左からシエナのカタリナ奥村一美さんとリタ末吉偕子さん。  
後列左から清水一男神父、市瀬幸一神父

# 「マリアニストの聖者を知らせる係」からのお知らせ

マリア会司祭 木寅 義信

この度、わたしは「マリアニストの聖者を知らせる係」に任命されました。「マリアニストの聖者を知らせる委員会」は4名から構成され、アレキサンドル神父が責任者です。この委員会からの知らせを通達するのがわたしの役目です。その内容はマリアニスト家族の皆さんにも関わりますのでお知らせします。

「マリアニストの聖者を知らせる委員会」は2020年12月に発足し、その動機を次のように説明しています。「マリアニストの聖者をマリアニスト家族の各枝に知らせ、その聖性を深めるためである。この委員会はすでに列福された、あるいは列福されようとしている14名のマリアニストの霊性を広め知らせる。列福や列聖はわたしたちがその取り次ぎを頼む人の忠誠と献身の結果であり、取り次ぎの恵みと奇跡をもたらします」と。これらの聖者の精神がわたしたちの生活と司牧活動とどのように関わるかということです。これらの聖者は毎月発行される『Via Latina』に掲載され、マリアニストの生き方を教える」ことです。

以下は、わたしがアレキサンドル神父に送ったメールの内容です。

「わたしはこの委員会のメンバーに選ばれたことに責任を感じています。正直なところ、わたしはこの委員会の内容も目的も知らずに委員に選ばれました。『Via Latina』に掲載されている内容にも目を通したり、通さなかったりが正直な

ところでした。外国語が障害になっていることも確かです。しかしこれらの記事を読むとき、先人たちが示した英雄的な徳には感服させられることも確かですし、どのようにすればこれらの信仰や勇気を模倣できるかが問題です。

問題は語学です。日本地区に属する邦人マリア会員は28名ですが、そのうちの23名は70歳以上で、外国語を苦手とし、インターネットに通じていません。かといってこのままでよいわけがありません。幸いVia Latinaは日本語に翻訳されていますので、日本語版の印刷物を各枝の会員に配布し通読してもらうように努力します。日本語版の印刷物でなければならない理由は、前述の通りですが、マリアニスト家族の各枝にも高齢者が多く、インターネットや外国語に通じている人も希少な状態です。

いずれにしてもマリアニスト聖者がわたしたちに送るメッセージを現代的に理解し、マリアニストの霊性の今日的意味を考える動機としなければなりません。語学上の障害がありますが、これからどのようにすべきか、また翻訳されたVia Latinaをどのようにマリアニスト家族の各枝に配布するかを考えなければなりません。」と伝えました。

以上「マリアニストの聖者を知らせる委員会」から報告があり次第、皆さまにお知らせすることになります。

## SM

## マリア会ニュース

### 1. マリア会のホームページの開示 (2021年10月11日)

ホームページアクセスは、<https://marianist-jp.com/> あるいは「マリア会・男子修道会」でも開かれます。沢山の最新情報が入っています。お楽しみに！

### 2. 有期誓願者を宣教修道院での体験のために派遣

レ・ゴック・ドアン、レ・ヴァン・シン、ハム・ヴァン・カウの3人の有期誓願者は、来年度からの宣教活動に備えて、シャミナード修道院から現場の別々の修道院に派遣されて、自分に合った将来の宣教活動の可能性を探っています。

	光星修道院	暁星修道院	明星修道院	海星修道院
Br. DOAN	11.15~11.28	10.18~11.31	11.01~11.14	
Br. SINH	11.01~11.14		10.18~10.31	11.15~11.28
Br. CAU		11.15~11.28		

当初予定していた日数がコロナ禍のために10月18日(月)~11月28日(日)の一ヶ月半だけになりました。カウさんは、膝の手術をしたりハビリテーションの都合で11月15日からのみ出発します。

### 3. 市瀬幸一地区長の各修道院訪問

11月15日海星修道院を皮切りに、12月17日まで、各修道院で4~5日かけて、講話と個人面談を中心に各修道院を訪問します。

### 4. 地区集会

日時：クリスマス明けの27日(月)~28日(火) 午後まで  
場所：シャミナード修道院で実施予定  
現状：但し、コロナ禍の第6波の動静如何です。

### 5. マリアニストスクール信者生徒黙想会

日時：2022年3月24日(木)~25日(金)  
場所：中軽井沢の御聖体の宣教クララ修道会で実施予定  
現状：但し、コロナ禍の第6波の動静如何です。  
ご参考までに、来年のご復活は、4月17日(日)です。

文責 青木 勲

## FMI ニュース

### マリアニスト宣教センター

#### ★1日黙想会(対面とZoom)のお知らせ 1月

「受胎告知」~お言葉どおり、この身になりますように~、

小田武直神父(町田教会助任司祭)

2022年1月10日(月)

10:00~15:30

#### 2月

「典礼におけるマリア」

青木 勲神父(マリア会司祭)

2022年2月26日(土)

10:00~15:30

参加費：1600円(昼食付)

Zoomでの参加は無料

会場：汚れなきマリア修道会

〒194-0032

東京都町田市本町田 3050-1

申し込み

E-mail: [marianist@marianist.jp](mailto:marianist@marianist.jp) まで、

1週間前までにお申し込みください。

#### ★その他の講座

マリアニスト家族(marianist.jp)をご覧ください。





# マリアニスト教育の協力者へのメッセージ

マリア会司祭 青木 勲

「マリアニスト教育に関するシリーズ」の最終回です。マリア会の第35回総会は、その最後の正式文書として、教育・司牧活動、更に社会での奉仕活動において、「私たちと共に奉仕して下さっている男女の多くの協力者」の方々にメッセージを送る意向を決定しました。今ここで「教育関係での協力者に限定して考えてみます。」

1. 最初の言葉は、教育現場での勤続年数やカトリックの信仰の有無を別にして、全教職員の方々が、「私たちと共にいてくださり、私たちのミッションを一緒に支えて下さっている存在の重さ」に心からの深い感謝の意を表します。

2. 聖ヨハネ・パウロ二世教皇は、シャミナード師の列福式の説教で(2000年)、彼の宣教活動の特徴は、信徒と共に、信徒のための活動であるとし、「信徒の使徒」と称え、パチカン公会議の信徒使徒職の実践者として評価されました。本会の宣教活動の軸である教育活動に携わる皆さんに向かっての第二の言葉は、「私たちと一緒に喜んでこの宣教活動に応え続けてください」と職務への忠実さと堅忍への呼びかけです。

3. マリア会の宣教方針は、あくまでキリスト中心の宣教方法です。しかし、マリアの慈母的配慮と深い信仰生活から滲み出てくる家庭の精神によって、すべての人を例外なく受け容れる共同体を築くことを目指しています。ですから第三の言葉は、「私たちと仲間になって、マリアニストの精神を常に深く生きてください」ということです。

4. 総会は、シャミナード師とアデル・ド・トランケレオン(2018年に列福)両福者を通してマリアニスト家族に賜った恵みを、将来の持続可能な成長・発展の原動力とする姿勢を確認しました。今後の教育活動の継続と活性化を保证する上で最後の言葉は、「教職員の深い関与、創意工夫、さらには継続的な協力」を期待し、「皆さんと一緒に私たちは一つの使命を分かちあいます。皆さんにとって、私たちは皆さんの兄弟です」と締めくくりました。

## 私のミッション Sr. マリアタム

「ミッション」とは「使命」を意味します。キリスト者の私たちはそれぞれ神から違う使命を与えられています。私たち一人ひとり、自分しか出来ない役割、自分しか果たせない使命を神から頂いていると思います。

私は去年から小学校で宗教の授業を手伝うことになりました。子どもたちと接するチャンスがあって特に神様のお話を伝える機会も沢山あります。この環境の中で働いている自分自身に何が出来るのか、どうしたらイエス・キリストのメッセージを児童の心に響かせるかをよく考えています。創立者は教会の使命の中で学校を創立したのでカトリック学校の使命は、教会の使命と繋がっていると思います。教会の使命は、すべての人に救いの福音(イエス・キリストのメッセージ)を伝え、キリストに生きる新しい人を作り出し、社会を刷新していくことです。「あなたは大切な人なのだ」、「あなたにいてほしい」。これが子供たちへの神のメッセージです。だから、子どもたち一人ひとりが自分は神さまから愛されている大切な存在であることを知らせるのが私の大きな使命の一つだと思います。

経験、知識、言語の壁とその不足、自分の限界をしみじみ感じています。神が必ず助けてくださることを信じています。

実際、マリア会の宣教活動はその種類が何であれ、共通の原則、手段、霊性、そして目標を通して成長させる一つの方向付けの故に、「教育活動」という枠組みに入ります。その目的達成のためには、マリア会員が高齢化し縮小している今会員以外の方々による管理者の育成が焦眉の急です。「マリアニスト・スクール連盟の総会・研修会」の趣旨を前面に打ち出して、学校経営と学校運営の後継者と協力者の養成を最優先とするべきです。またICT関係への理解を深め時空間の距離を短縮し、従来の「教えー教えられる」板書形式の一方通行から、iPadの導入による臨場感をもって児童・生徒と教員が現実の問題点に気づき、解決策を模索していく「相互の総合学習」の環境作りが求められるでしょう。そして何よりもカトリックの信仰を基礎に、福音的価値打ちをもっと分かり易く伝え、児童・生徒への愛情と優しさ雰囲気の中で、神の似姿である人間の恵みと尊さを感じ取らせる生活環境に作り替えていかなければならないと感じます。この2年間私事ですが、小学校でのチャプレンの仕事を通して、改めて教育活動の大切さと素晴らしさを学び取っています。その意味でなぜ「第35回マリア会総会」が教育活動における協力者のメッセージを送りたいと思ったかがしみじみ分かった思いです。これで三回連続の「マリアニスト教育」に関するシリーズを終わります。

「この人が、何か言いつけたら、そのとおりにしてください!」  
(ヨハネ福音書2章5節)



### 無原罪の聖マリア

教会は、毎年12月8日に「無原罪の聖マリア」を大きな喜びをもって祝います。

ところが、聖書のどこを探しても、マリアが「原罪の汚れなく宿られた」という表現は見あたりません。それ自体の表現としては聖書には記されていないのです。

しかし、すでに初代教会の頃より、神の母となられた方が、原罪の汚れなく宿られ、また、生涯罪を犯されなかったということを暗黙の裡に信じていました。これは、教会が宣言する以前から、キリスト者の中に、キリスト者の直感、キリスト教的センスともいべきものとして存在していたのです。

そして、マリアの無原罪についての長い論争の歴史を経て、ピオ9世教皇は1854年12月8日にマリアの無原罪のおん宿りの教義を決定しました。

「至聖なるおとめの靈魂は、造られてからだに注入された最初の瞬間に、人類のあがない主、子イエス・キリストの功績の故に、神の唯一無二の恩恵と特権によって、原罪の汚れを予防的に免れるをえた」。

#### 無原罪のおんやどりの教義の聖書の基礎

ピオ9世は、この教義を定義するにあたって、その基礎として、特に、聖書の二つの箇所をあげています。

##### 1. 創世記3章15節：

「お前と女、お前の子孫と女の子孫の間に私は敵意を置く。彼はおまえの頭を砕き、お前は彼のかかとを砕く。」

##### 2. ルカ1章26～36節：マリアへのお告げ

「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。…」

マリアは、神の母となるためにキリストの贖いの恵みを先行的に、予防的に与えられました。彼女も私たち同様、キリストの贖いの恵みに与られたのです。

違いは、マリアがその存在の瞬間からあがなわれた方であるのに対し、私たちは、地上に来てからあがなわれたという点です。イエスは、人類を罪から救うために受難と十字架の死と言う痛ましい代価を払われました。その時、マリアは、十字架上のイエスの足元に立って苦しみを共にしながら、イエスの救いの実りを誰よりも先に受け取られたのです。

Sr. 小林 幾久子

## \* 職場でのオンライン導入

コロナ禍になって、教育業務がオンラインとなる知らせが2020年3月上旬に東京大学からありました。最初の2ヶ月間は、主任教授らによる講義がYouTube上に公開されたものを用いました。この間、オンラインでの講義の準備をしました。まず、黒板の代わりにペンタブレットを購入しました。最初購入した安価な製品では表示範囲が狭く、使いにくいことから、最高品質のペンタブレットを1ヶ月の試用期間を経て購入しました。しかし、これを用いるためには最新のパソコンOSが必要でした。そのため、外付けハードディスクを新調し、そこにHDのback-upを取りながら、本体のHDにpartitionを区切り、新OSを別にinstall(dual boot)しました。新OSでは、Adobeの従来のアプリが動かないため、新たにAdobe製品20アプリと契約をしました。また、ここに行き着くまでに、講義をビデオカメラで録画し、オンデマンド配信する試みもしました。準備期間にちょうど2ヶ月、予算は約50万円かかりました。

## \* MLCにおけるオンラインの導入

一方、マリアニスト家族のホームページの更新依頼も受けました。実際に、ホームページのhtml fileを見てみると、20年前に開発されたhtml4で書かれていることがわかり、これをhtml5に更新する作業を行いました。ファイルが約4000個ありましたので、毎日3時間作業をして、約半年で作業を完了しました。ホームページを私が作成していたのは20数年前のことで、当時はワープロで書くような感覚でした。と

ころがいまでは、文章はhtmlで書き、文章のstyleはcssで記述するようになっていました。私は全くの素人ですので、1から勉強し始めました。ホームページを作成するには、この他、写真の加工技術やプログラミング言語java scriptも必要です。そのために購入した書籍が21冊です。こうしたことができて初めて、「メール・アデルの日めくりカレンダー」を実現できます。この日めくりカレンダーにはアデルの手紙から言葉が引用されています。その言葉は、FMIの若いシスターから提案されているものですが、文章が正確か確認する作業があります。そのためには、柿山先生が訳された『アデルの手紙』をpdf化したものを検索して使用しています。このpdf化には、訳本を忠実に1文字1文字、手で入力する作業があり、そのために約2年費やしました。結局、小さな作業の積み重ねが後になって役に立ちました。

## \* ZOOMでの発信

さて、今年度からzoomで宗教講座を行うお手伝いをするようになって感じたことがあります。もちろん、対面できないことも多々ありますが、講座のために外出することができない方や遠方にお住まいの方にとってはzoomのお蔭で参加ができるようになりました。また、パソコンを使うことで、webを活用しながら、例えばルルドでのロザリオの祈りを聞きながら、私たちもお祈りをすることができます。もしコロナが収まり、対面での講座が可能になったとしても、オンラインでの講座配信は続けていくことで新しい可能性が生まれてくるように思います。

FMI

## 私の使命 Sr.トゥオン

私が二宮修道院から町田修道院に移動したのはちょうどコロナが始まったころです。マリアニストの一員である私の今の生活を分かち合いたいと思います。

私は有期誓願者として他の11名のシスター方と一緒に町田修道院で過ごしています。こちらに黙想の家があって、私は黙想者を迎えるための場所を整える準備の仕事を手伝っています。コロナのために以前ほど黙想の家を利用するグループが多くはなく、あまり忙しくありませんが、責任者のシスターから色々なことを教わっています。その中に、黙想するため、研修するために来院されるお客様の一人一人がイエス様だから心を込めて、お部屋を準備したり、食べ物を作ったりするのが大切だということです。少しずつそういう気持ちを深めながら作業すると「明日はイエス様が訪れて下さるんだ」と実感できて、嬉しく思っています。おもてなしだけではなく、来客のために祈りを捧げるのも共同体、また私の一つの使命だと思っています。

町田修道院の庭は広くて、草がぼうぼうと生えているので毎日少しの時間で他の姉妹たちと一緒に庭の仕事をしています。

す。大自然の中で仕事すると神様の素晴らしさを賛美せずにはいられないです。時には仕事の後、皆で芝生に横になって大空に漂う曇をながめながらゆっくりと呼吸しています。

院内の仕事の他、両創立者のことや本会の精神についての勉強会があって、深める機会となっています。

そして今、日本にはベトナムの技能実習生と留学生が増えるにつれて、色々な問題が起こっています。困難に直面している方も多くなっています。それに関して、日本のカトリック教会が立ち上がり、移民移住移動者委員会や専門家、弁護士の方々が技能実習生との相談会を催して下さっています。私も時々その相談会に参加し、手伝わさせていただいています。日本語ができない技能実習生がいたら、通訳のお手伝いです。それに参加して、技能実習生の方々の大変さや正義のために働いている方々の熱心さが分かってきて、自分の日々の祈りにその方々のことも加えるように心掛けています。

皆それぞれの使命があると思いますが、私は今与えられた使命を置かれた場で自分なりに出来るだけ愛を持って、マリアの助けを願いながら忠実に果たしたいと日々励んでいます。

### ◎ MLC からのお知らせ

MLCとしてのホームページがあります。

スマホのスタイルで手軽に見ることができます。

URL: <https://www.cafemlc.org>

ホーム(MLCの年間目標、チャレンジ目標、養成プログラム…)

お知らせ、マリアニストの祈り、ブログ、動画

などがご覧になれます。

MLCを紹介するときなどに、ご利用ください。



■発行：日本マリアニスト家族評議会

問い合わせメール：[marianist@marianist.jp](mailto:marianist@marianist.jp)

ホームページ：<https://www.marianist.jp/>